

は じ め に

平成5年度から4か年計画で始まった文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立——世界と地域の共存のパラダイムを求めて」（略称：総合的地域研究）の第1年度がまもなく終わろうとしています。この機会に、この1年間の各研究班の研究活動をふりかえり、来年度以降の参考とするための資料として『平成5年度の活動の記録』をまとめることにしました。

新しい学問分野である地域研究を「総合的地域研究」という枠組みのなかで再検証し、地域研究を地域間の研究へ、さらには世界と地域の連関の研究へと進めようとするこの研究プロジェクトは、「地域研究の先端領域：東南アジアからの視座」および「地域研究の手法」という二つの大きな研究テーマを掲げ、それぞれに三つの研究項目を設定、さらに各項目ごとに一つの計画研究と複数の公募研究を配置するという研究組織でスタートしました。幸いなことに、各研究項目にふさわしい多くの公募研究が採択され、結果的には、総括班、計画研究班6班、公募研究班14班の計21班、参加研究者104名という充実した研究組織で研究活動をスタートさせることができました。

総括班を除く各研究班のこの1年間の研究活動を研究代表者にまとめていただいたのがこの『平成5年度の活動の記録』です。それぞれの研究班が、研究課題に沿って充実した研究活動を展開したことがうかがえ、プロジェクト発足後の第1年目の活動としては、ほぼ満足のいく所期の成果をあげられたことと思います。その一方で、これだけの大規模な共同研究を「総合的地域研究」という概念でまとめながら、さらに地域研究の「手法」確立へと展開させることはそう簡単な作業ではないという思いも、1年間が過ぎたいま強く感じているところです。研究班ならびに研究者相互の共同・交流・批判を来年度以降も一層強化していくことの必要性を痛感する次第です。

総括班では、こうしたねらいもあって、これまで「ニューズレター」で研究会の開催案内を研究組織のメンバーの皆さんに配布するとともに、季刊誌『総合的地域研究』を発行して研究活動の広報に努めてまいりました。季刊誌は、現在第4号まで発行されていますが、いまのところ研究組織以外の地域研究者や関連する研究者からも好評を得ているとうかがっています。こうした広報活動は、もちろん、来年度以降も総括班の仕事の一環として続けていきますが、研究プロジェクトも第2年目となると、当然のことながら、この研究プロジェクトからどんな成果が生まれているのかが問われることとなります。こうした期待に応えるために、各研究班ならびに研究組織メンバーのプロジェクトに関連する研究成果を、随時、「成果報告書シリーズ」として総括班から刊行していくことにしました。この『平成5年度の活動の記録』はそのシリーズの第1号ということになります。また、平成5年度に総括班が主催した研究集会やシ

ンポジウムの記録も、このシリーズの第2号として発行すべく準備を進めています。

すでに平成5年度末の代表者会議で各班の研究代表者をお願いしましたように、研究活動を充実させるだけでなく、その成果を公表していくこともこうした大きな研究プロジェクトの責務と言わねばなりません。この「成果報告書シリーズ」がそのためのメディアになるとともに、より完成度の高い研究成果を刊行するための予備的な報告になればと期待しています。当面は、研究会のプロシーディングや各班の研究報告、あるいは各メンバーの論考・論文、そして一次資料を集成した資料集などを収録できればと考えております。また、研究組織内のディスカッション・ペーパーとして、各メンバーがこのシリーズを積極的に利用していただくことも可能です。このシリーズの第1号発行の機会をかりて、メンバーの皆さんに「研究報告書シリーズ」への積極的なご寄稿をお願いする次第です。

最後になりましたが、この1年間の皆さんのご協力に感謝申し上げますとともに、来年度も一層のご協力をお願いして、ご挨拶といたします。

1994年3月

文部省重点領域研究「総合的地域研究」総括班
領域代表者 坪内良博